

沖繩・これからも辺野古での座り込みは続きます

聖公会青年委員会で、正義と平和委員会と共に、二〇〇五年七月より名護聖ヨハネ教会に現地コーディネーターを置き、辺野古の座り込み活動に参加してきました。

普天間基地返還の条件である代替基地建設地として挙げられた辺野古ですが、新たな基地負担や大きな環境破壊に反対し、建設阻止の座り込み・海上阻止行動が続いています。コーディネーターは辺野古テント村での毎日の座り込みに参加し、そこで見聞きした出来事をブログで発信すると同時に、座り込みに参加する青年を全国から募集しました。

行動の訓練に参加しました。海兵隊基地であるキャンプ・シユワブに隣接した土地と、類まれな生命の恵みにあふれた海を同時に体験し、また、座り込みを始めて十年になる「命を守る会」のお年寄りとの交流で、基地とは何か、戦争とは何かを深く考えさせられました。また、テント村の活動で強く結び付けられた、全国から集まっているボランティアや、地元で活動している多くの人々との間で、聖公会の青年としてできることは何か考えました。中には、教区でさまざまなアピールの会をしたり、バザーの収益を座り込みへのカンパとして送ったり、教区報を利用してより多くの人にこの問題を考

えてもらうようなきつかけを作っている人々がいいます。今年五月初めの日米政府の協議により、辺野古沖の埋め立て案の代わりに、辺野古崎から周囲を埋め立てる案が決定されました。辺野古崎はキャンプ・シユワブ内であることから、阻止行動が難しくなることが現在懸念されています。しかし、周辺住宅地を飛行経路の真下にし、辺野古の海に劣らぬ素晴らしい自然の宝庫である大浦湾を大きく埋め立てる案に、地元住民の反対行動はますます大きくなっていきます。名護市長が合意したV字型滑走路の安全性にまったく現実味がないことは、地元沖繩では周知の事実です。

ききました。沖繩の基地の現実を学んだ私たちは、これからもこの問題を私たち自身の問題として捉え、今しなくてはならないこととして、次の埋め立て案も必ず阻止するため、声を上げ、行動していくことが必要です。(東京・立教学院諸聖徒礼拝堂/神崎直子)

中部

中部教区の青年による集い「雪の上で平和を考える」が、本年一月七日九日、長野県小布施町のスタートハウスで開催された。プログラムのはじめは牛島さん(名古屋聖マタイ)から、沖繩の基地問題について。この問題は遠い県の事件ではなく、我々の日常にも関わる事件。牛島さんは辺野古の運動を自分の目で見て、肌で感じたままを中部教区の青年達に伝えた。その次にビデオによる実際の映像。今我々が動かなければ

れば未来の子や孫達に辛い思いをさせるかもしれない。背中を押され、奮い立たされる内容の話であった。また、小林さん(長野聖救主)から、沖繩基地の県内移設反対県民集会などに参加した率直な感想を聞くことが出来た。最後に私が、愛知、岐阜の太平洋戦争に関する件で話をした。両県は爆弾を落とされ多くの市民が死傷した被害を被っただけではない。中国や朝鮮の人々に対して危害を

加えた土地でもあったと言ふ事実も忘れてはならない。二日目は、多くのメンバーが飯山復活教会へ向かった。二m近くの降雪で、教会は雪の中に埋もれ、雪の中に作られた階段があった。自然の大きさを感じさせられた。夜は、集いに参加した思いをもとに歌を作ろうというプログラムであった。グループに分かれて言葉を出し合い、詩の作成を行った。最後には沖繩をテーマとした平和の歌ができた。骨格が出来たのは二日目のプログラム

朝のひかりが

ゆったりと伸びやかに

詞・中部教区青年会
曲・塩田泉

Moderato ♩ 94



1. あさのひかりが うーみをてら すきらも
2. ジュゴンが ちのそちのう みもの
3. 主が つけられ このらと うみ



1. めくみーさきたがーぜい なみこ えあむ
2. にち生きーさきた おおじい おおゆーい わ
3. ちのまーち



1. ささしかなけ るーこち どかどちのくに
2. さしかなけ るーこち どかどちのくに
3. さしかなけ るーこち どかどちのくに



1. わらうたごえを、 たや さぬーに
2. ちうたごえを、 たや さぬーに
3. どうたごえを、 たや さぬーに



1. わらうたごえを、 たや さぬーに
2. ちうたごえを、 たや さぬーに
3. どうたごえを、 たや さぬーに

作詞 小布施スタートハウスにて 2006.1.7(土)~9(月)
作曲 あずみ野にて 2006.2.15(水)~2.14(火) あかつきの村

ム終了後の深夜。二月に有志が集まり歌詞を完成。(後日、思わぬ出会いから「キリストの平和」等の作曲家塩田泉さんに曲をつけていただいた。)最終日の礼拝は持ち寄った楽器も用いられ、新生病院からも参加者があり共に素晴らしい時間を過ごすことが出来た。(中部・一宮聖光教会/水谷紀輔)